

観天 望気

海の恵みを未来へつなぐ

世界の人口増加や健康志向の高まりを背景に、水産物の需要は今後も増加すると見込まれる一方で、気候変動による養殖環境の変化は進み、対応が急務となっています。こうした中、養殖業は持続的な水産物供給を支える産業として、その役割を一層高めています。

日本の養殖業は長年発展を続けてきましたが、近年は魚粉価格の高騰や原料調達の不安定化、気候変動への対応など多くの課題に直面しています。持続可能な成長を実現するためには、生産性向上と環境負荷低減を両立する新たな技術や仕組みが求められます。

その一つが飼料の進化です。水産用配合飼料の主要原料は魚粉ですが、この魚粉への依存を低減するため、フィード・ワンでは、無魚粉飼料の開発・販売や、魚粉代替原料として昆虫タンパクの活用を進めています。天然資源への負荷を抑えながら安定的な養殖生産を支える取り組みは、今後さらに重要になると考えています。

加えて、気候変動への対応も養殖業における重要なテーマとなっています。近年は海水温の上昇により養殖現場の環境が変化し、生産管理の難易度は年々高まっています。こうした課題に対し、当社では高水温期の給餌制限に着目した飼養技術の確立を進めています。高水温により養殖魚の生育が停滞する時期があっても、その後の成長特性を活用することで生産性の維持・向上を図る飼養技術です。

養殖業は天然資源の保全と安定的な食料供給を両立し、地域経済や食文化を未来につなぐ重要な役割を担っています。その価値をより高めるためには、生産者、研究機関、行政、そして私たち飼料メーカーを含む関連業界が連携し、それぞれの知見や技術を集結して、新たな価値を創出していくことが不可欠です。

持続可能な養殖業の実現は、未来の世代へ豊かな海の恵みを引き継ぐことにつながります。私たちはこれからも飼料や技術の力で現場の課題解決に取り組み、日本の養殖業とともに成長しながら、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



庄司 英洋

フィード・ワン株式会社 代表取締役社長

しょうじ ひでひろ

1988年4月、三井物産に入社。同社食料本部で糖質や穀物取引などのビジネスに関わり、食糧事業部長、食料・流通事業業務部長を歴任する。2020年4月、フィード・ワン上席執行役員経営企画部長に就任。常務執行役員経営企画部長兼水産飼料部副管掌を経て、22年6月より現職。